

読み札	絵札	解説
		<p>やまぐに く うみべ 山国に暮らす人は海、海辺に住む人は山にあこがれるという。昭和41年(1966)5月、山の沼田市と海の下田町(現在は市)は、姉妹都市として結ばれ、以来「沼田まつり」「黒船まつり」などの行事を中心として相互の文化交流を行っている。</p> <p>なお、ドイツ連邦共和国バイエルン州のフュッセン市とは平成7年(1995)9月から姉妹都市である。</p>
		<p>とがの 戸鹿野は、戦国の世、沼田氏が後閑八幡宮の神力により敵を討ちはらった地なので、沼田城の南の護りとして享禄3年(1530)8月15日、八幡宮を勧請したという。天正8年(1580)真田昌幸が出陣に際し戦勝を祈願。歴代の沼田城主が武神としてあがめていた。大砲・弓的の奉納額、絵馬等が多数現存する。亀甲積みの見事な石垣、長い石段、大鳥居がある。</p> <p>昭和51年(1976)市指定史跡</p>
		<p>うすね おおくわ いしずみまち やまぐわ じゅれい すいてい 薄根の大桑は石墨町にある山桑で樹齢1500年と推定される。根元周囲約5.7m、樹高約13mの巨木で、桑樹では日本三名木の一つといわれる。貞享3年(1686)高須隼人が石墨村を再検地した時、この大桑を検地の標木としたという。また樹容が端正なので古来養蚕の神と称えられた。</p> <p>昭和31年(1956)国指定天然記念物。平成23年(2011)ぐんま絹遺産登録</p>